

第9回あゆ王国高知振興ビジョン推進協議会 議事概要

■開催日時：令和7年11月18日（火）10:00～12:00

■開催場所：高知県立人権啓発センター 6階ホール

■出席委員：黒笹会長、岡村副会長、坪井委員、百田委員、鍵山委員、藤本委員、西脇委員、林委員、西内委員、吉村委員

■議事：

（1）本年度の取組状況について（資料1～2に基づき県、市町村から説明）

○利き鮎会について

- ・現在のスタイルの存続が難しいという話を聞く。全国的に見てもインパクトのある取組。絶対に続けた方がよい。官民挙げてサポートをして存続すべきという思いがある。（坪井委員）
- ・県としても続けるべきという方向性。友釣り連盟とも複数回協議をしており、また近日中に協議を行う予定。何らかの形で存続をはかる方向で動いている。（水産振興部）
- ・あゆに関する最大のイベント。あゆの準備は大変な作業ではあるが、会場としてできる限り協力していきたい。（藤本委員）
- ・存続できるよう各漁協や市町村の協力を得ながら、詳細を検討していきたいと考えている。（水産振興部）

○あゆの販路拡大について

- ・作業部会の中で、豊洲市場の関係者から高知のあゆのニーズは5～7月までと聞いた。一方、高知の感覚では漁期終盤のあゆがおいしい。しっかり都会に売っていくためにポジションを固めることが必要。（黒笹会長）
- ・8月になるとサンマの需要が高まるため、あゆの需要が低下するという話であった。一番おいしい時期の物を飲食店の店主の方に知ってもらうことが必要と考える。（西内委員）
- ・8月開催のシーフードショーでのPRが効率的でよいのではないかと。3年程度、毎年同じようにPRしていき、積み上げていくことで認知度が上がっていくと思う。（西内委員）
- ・8月以降はあゆが売れない。9月のあゆが一番おいしいと言いつつ、豊洲には限界があると感じている。道の駅で何とかあゆを出していこうと加工品を試作しているが、全て手作りなのでなかなか量はできないという課題がある。（林委員）
- ・先日の四万十でのあゆまつりで県内外のお客さんにたくさんあゆを買ってもらえた。こうち天然あゆまつりを始め、県内各所であゆまつりが開催される等、あゆ王国高知の取り組みが広がっていることが、あゆに興味を持つ方の増加につながっていると感じている。感謝と共にますます取り組みを進めていきたいと思っている。（林委員）

○あゆの塩焼き体験について

- ・あゆの友釣り体験に塩焼き体験も加えてほしい。県の観光メニューとしてもその方向での検討も行ってほしい。(黒笹委員)
- ・希望者は非常に多いが、塩焼きができる場所等の問題がある。塩焼きが可能な場所さえ確保できれば実施可能と考える(西脇委員)

○あゆと観光について

- ・どっぷり高知旅キャンペーンを展開する中で、あゆを一つの材料としてPRしている。今年は東京・大阪を集めた担当者会の懇親会の中で高知のあゆを食べてもらった。あゆの良さはある程度分かってもらえたと思うので、旅行商品につなげていきたいと考えている。(鍵山委員)
- ・利き鮎会等の場に、一定インフルエンサーの枠を作ってもらいたいということが必要。川の食文化という文脈で、あゆを盛り立てるためにあゆ以外の川エビやツガニのおいしさを伝えつつ、あゆをあわせてPRすることもできるのではないか。(百田委員)

(2) 作業部会の取組について(資料3～5に基づき事務局から説明)

○仁淀川のあゆについて

- ・豊洲での展開をしっかりと考えて前に進めていきたい。また、安田川と奈半利川のあゆが一定、都市部の魚屋に出るようになったのはとても大きいことだと思う。
- ・商流を広げるためには数が足りない。料理屋が使いたい6～7月は仁淀川であゆが捕りにくい時期。やっと出せる8月になると料理屋の需要がない。冷凍しかやりようがない状況。(西脇委員)

○全体を通じて(総括)

- ・令和9年度までの目標に向けて、どこに力を注いでいくか考える半年～1年になると思う。販売をどこに増やしていくか、強弱をつけて戦略的にやっていくことも大切。柱5情報発信の目標については、これから頑張っていくかといけないところと思う。情報発信部会では目標に向けてどう動いていくか話をしていくことになると思う。(岡村委員)
- ・あゆは観光地やイベントで食べるものだとすれば、高知の観光地であゆが食べられるのかということも今一度見つけ直すタイミングだと思う。(岡村委員)

以上